第48回
日本外来臨床精神医学会
研究会

ＪＣＯＰ症例検討会

2023年4月23日

オンライン開催

第48回研究会　症例検討

「多彩な症状を呈した広汎性発達障害の診断・治療について」

前久保 邦昭（前久保クリニック　院長）

抄　録

約30年の治療経過中、てんかん、統合失調症、気分障害（うつ病、双極性気分障害Ⅱ型、気分変調症）、解離性障害、統合失調感情障害、広汎性発達障害など多彩な診断のもと対応した症例を報告する。

全般経過を通し、学校、家族、彼氏などの人間関係ストレスの内容と強さに応じて病状の種類やその程度が変化した。ベースに成育歴や広汎性発達障害の問題があると思われるが、当症例の基底にある問題を浮き彫りにし、時代の変遷とともに変化する診断やその社会的背景についても検討を加え、今後の治療に役立てたい。

第48回研究会　症例検討

「ありきたりな社会適応を目指し、改めて障がい受容の段階を踏んでいる20代青年 ～social communication disorderの概念～」

加藤 高裕（浜松町メンタルクリニック　院長）

抄　録

近年、発達障害の過剰・過小診断が見受けられるが、果たして神経発達症のカテゴリーの分類とはどのような意義があり、どのようなことが今後は変遷していくのであろうか。治療者が「広汎性発達障害」から、「自閉症スペクトラム障害」と呼称と概念を変えていくにあたり、診断はむしろ狭小化した印象があり、「広汎性発達障害」のほうが日本語としてしっくりくるかもしれない。この差異を埋めるために「グレーゾーン」という便利な言葉があるが、果たして何を指しているのか。また、ある程度の高等教育を受けたとされる人が、何に困難感をもつのか、そしてsocial communication disorderという概念がどのような人々に適応されるのであろうか、成育過程と治療の段階を踏まえて考察していきたい。